

〈わ〉で遊ぼうイベント開催

5月の連休中、水の科学博物館で

グループわ が受託している水の科学博物館は、5月の連休中に親子連れを楽しませようと「和(わ)で遊ぼう」イベントを開催しました。

4日はわらい届け隊が午前2回、午後2回公演。古後健一代表(福18)、熊坂真佐子(同)、池内瞳(同)、狛谷貞夫(同)、近藤千恵子(同)、松井照雄(同)、米田よう子(食18)、石田定徳(福20)さんの8人が参加。観客は毎回約30人。

まずチンドン屋の衣装をまとった8人が太鼓を打ち鳴らしながら入場。マジックの古後代表は「見えた、知ってる、わかったと言わな



子供たちと毛糸の手遊びをするメンバー

いで。演じる人ががっくりします」とお客さんの笑いを誘います。そして子どもに2本の筒を持たせ、ピンポン玉を入れて「チチンパイ」と呪文をかけると、あら不思議、別の筒からピンポン玉が出てきます。松井さんは大きな袋を取り出し、「エイ」と掛け声をかけると小さなカラフルな傘が現れます。「妖怪ハウ



マジックを披露する米田さん

ス」と描いた空っぽの段ボール箱からは、なんと美女が飛び出てきます。トリックを見破ろうと身を乗り出して見守っていた子供たちから、そのたびに「ウォー」と歓声が上がります。また、子どもたちが選んだ妖怪ウォッチの名前や、相手の誕生日を言い当てるゲームとか、毛糸の手あそびなど、会場のみみんなと一緒に楽しむプログラムが主でした。最後に、みんなで「サザエさん体操」で締めくくると、来場の親子は「面白かつ

た。楽しかった。歌とゲームがよかった」。スタッフも「観客の反応がよく、やりやすかった。自分も楽しんだ」と話していました。

3日はおはなし糸車の紙芝居とエプロンシアター。5日はむかしあそび研究会の折り紙、ぶんぶんごま、紙トンボ、はねかえるなど。7日はKSCマジッククラブ、8日はうらしまたろうの皿回し、バルーンアート、面白メガネなどで遊びました。

わいわいストリート賑わう

しあわせの村芝生広場

「パパ、やった！竹馬に乗れたよ」。小学校1、2年生の男の子が目を輝かして叫びます。

グループわ、こうべ市民福祉振興協会主催のわいわいストリートが5月3日、しあわせの村芝生広場で開かれました。〈わ〉のむかしあそび研究会の70人、木工グループ23人、ケナフの会20人、うらしまたろう8人と本部約20人の計140人が親子連れを相手に奮闘しました。参加料200円を払った子供380人を含む1000人がイベントを堪能しました。

むかしあそび研究会は手玉、はねかえる、折り紙、あやとり、ぶんぶんごま、竹馬、紙飛行機、けん玉などのブースを設置。風が強くと紙飛行機が思わぬ高さまで飛び、子供は大喜びでした。



木工グループはトラ、カバ、自動車、汽車、昇り人形などの

ケナフで漉いた紙に押し花をのせて絵はがき作り

材料を用意。子供たちは板に形を描いて置き、苦労して糸鋸でくり抜きます。ケナフの会はケナフで紙を漉き、押し花をのせて乾かす絵葉書づくり。100人分の材料を用意、押し花を集めるのに苦労したといいます。うらしまたろうはバルーンアート、皿回しを準備しました。このほか、妖怪ホイホイ、輪投げ、ドラエモンキャラクターなどのブロック絵合わせも人気でした。これだけたくさんの遊びができるチャンスは珍しく、わいわいストリートが神戸っ子に定着しているように見受けられました。

(取材・写真 広報 永野知己)